

第2回尚綱メディアフェスタが 私たちに残してくれたもの

農業を通じてふれあい、元気を与え、元気をいただく

～第32回白石市農業祭～

学生たちは、自分の足で白石を歩き、白石を調べ、白石を表現してくれた。

この地に住んでいるからこそ、見過ごしてしまう。私たちの知らない素晴らしい「輝くもの」が、白石にはまだまだある。学生たちはそのことを教えてくれた。そして、それを今後に生かすことが私たちの役割である。



「白石城をさまざまな角度からのぞくとどう見えるか」を写真や地図を用いて展示訪れた市民の方々は、学生の説明に聞き入った(壽丸屋敷にて)



01



02



03



04



05

01_秋晴れに恵まれた2日間。約20,000人の人出でにぎわいました 02_今年の農業祭には、福岡中の2年生がスタッフとして参加 03_恒例の「農林産物コンテスト」には570点が出品 04_姉妹都市である神奈川県海老名市の物産展 05_姉妹都市である北海道登別市の物産展では、毛ガニが大人気

11月6日・7日の両日、ホワイトキューブで「第32回白石市農業祭」を開催しました。会場には、農家の皆さんが丹精込めて育てた「秋の実り」がズラリと集合！登別市・海老名市・白石市の小中学生の作品が並んだ「ミニ美術館」やステージイベントなどが会場を盛り上げました。今年夏の猛暑などの影響で、農家の皆さんにとって厳しい秋の収穫に。それでも、農家の皆さんと市民の皆さんがふれあい、交流を深め、会場の至る所で笑顔のあふれるイベントとなりました。

農業祭を機会に新しい力が生まれる

さまざまな視点から「白石」を映し出す

10月30日・31日の2日間、壽丸屋敷や中央公民館、

専念寺、中心商店街の空き店舗などを利用して、「第2回尚綱メディアフェスタ」白石プリズム回廊」が開催された。これは、尚綱学院大学表現文化学科(名取市)の学生や教員約100人が、学生たちの「若い視点」を切り口に、さまざまなメディアの特性を生かして、白石の隠れた魅力を引き出そうとする総合文化イベントである。昨年に開催された第1回は、「今から描きたい」白石遠近法」と題して、インターネットや映画などを用いて白石を紹介し、3日間で約4,000人が会場を訪れた。

学生と市民が協働

10月19日の記者発表で風間市長は、「これからのまちづくりには、住民の力はもちろん、皆さんのようなほかから来た人の目が必要な力になる。住んでいると見過ごすことを、皆さんが見つつけ光らせる。それをまちづ

くりを生かしたい」とイベントへの期待を述べた。また、尚綱学院大学の佐々木公明学長は、「私たちの大学が掲げる『地域社会と連携した実践的な教育』の場として、この風土を提供していただいた市民の皆さまに感謝するとともに、うまく融合していきたい」とあいさつした。本年2月以降、学生たちは何度も白石に足を運び、市民の皆さんとふれあい、語り合った。春まつりや鬼小十郎まつりなどのイベントや、白石で活動している団体や職人、歴史、文化など、私たちが想像も付かない若い視点で取材を行い、白石を歩き回った。

何かきっかけがなければ、日常生活のありふれたことや物、人、そして、暮らしの中で共有してきた歴史や文化から、白石の隠れた魅力を映し出そうと、調べる人は少ないだろう。それを市外の大学の学生が、若い視点で映し出してくれたこのイベント。これからの白石を考えるため、このイベントが残してくれたことを検証する。

このイベントを次に

登別市・海老名市・白石市「トライアングル交流」



▲一層の交流を誓う3市長

農業祭前日、姉妹都市の小笠原春一登別市長、内野優海老名市長、風間市長がホワイトキューブで、官民さまざまな分野で交流を深めるための「トライアングル交流宣言」に合意しました。4月に災害援助協定を締結した3市。正式な調印は来年4月、海老名市で行う予定で、3市が「家族・友達」のように絆を深めることが期待されます。

宮城大学の学生が「米」の新しい食べ方を提案

宮城大学食産業学部の学生たちが白石市認定農業者連絡協議会と連携。白石産の米と麴から作った甘酒と、牛乳をミックスした「甘酒ミルク」、青ばた豆腐と米のアイスクリーム「ライスクリーム」を開発しました。ライスクリームは砂糖、卵、牛乳を使わず、カロリーとアレルギーへの対応を考慮。訪れた人は、その新しい味を楽しんでいました。



▲試食コーナーには行列ができました

旧白石市地方卸売市場産直・物産「小十郎の郷」



▲新米卵かけご飯をほおぼる子どもたち

8月に設立した「NPO小十郎まちづくりネットワーク」(志村浩幸代表)は、白石市地方卸売市場跡地を活用して、農産物即売会を開催。会場では、同ネットワークに参加する団体・個人が、新鮮野菜などを販売したり、新米卵かけご飯と豚汁を提供したりしました。卵かけご飯と豚汁は、先着200食の予定を500食に変更するほどの盛況ぶりでした。